



津高同窓会美術展(昭和60年7月30日～8月4日・三重県立美術館県民ギャラリーにて)

同窓会と永遠なれ

同窓会長 吉原一真(昭和8年生)



発行所
津市新町3丁目1-1
津高等学校
同窓会事務局
0592-28-0256
共立印刷株式会社

津高同窓会美術展開催 2面

テヘランからの便り……………3面
中日の架け橋……………3面
平和への思い……………4面
レーガン大統領……………5面
招かれて……………5面

母校を訪ねて……………5面
異動……………6・7面
昭和61年度津高同窓会
パーティーお知らせ……………8面
今年の進捗状況……………8面

昭和二十年七月三〇日から八月四日まで、津市大谷町の三重県立美術館の県民ギャラリーを会場として、津高同窓会は、絵画、彫刻、美術工芸、写真、書の五部門で、出展要綱により出品された作品を展示した。

明治十七年創立以来、全国各地に散在している陳川(旧津中)三重校(津高)、津高の同窓生の作品を一堂に展示するということは、関係者にとり、一般市民にとり、身近な津高の伝統と歴史を次々にうけつぐ惟だだった。

ご挨拶

学校長 袖野貞二

同窓会の各位、ご健勝のこと拝察いたします。平素は母校の為に何かとご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

さて、こうして校長室におりますと、新体育館よりクラブ活動の元気を叫び声が聞こえてきます。各位よりの多大なご援助により新しい武道館と体育館が完成をいたしました。これを機に我が津高は進学スポーツに文武両道をめざして益々精進してまいりたい所存であります。

さる盛夏、津高同窓会美術展が開催され、県立美術館にてむき大作、力作の前に立つた時、私は「津高」に圧倒されるような熱いものを感じながら会場を二巡させていただいたのでした。

〇五年という津高の伝統を



テープカットのもよう
写真左より大正13年卒金子安雄さん・吉原一真同窓会長・袖野貞三学校長・鳥羽登実行委員長・昭和58年卒宮木辰子さん。

の美術展を見ることができた。その裏付けを得ることができたような気がいたしました。

私もいつのまにか、そんな津高同窓各位とご一緒し、五年が経過して同窓会の皆様のご助力があつた。

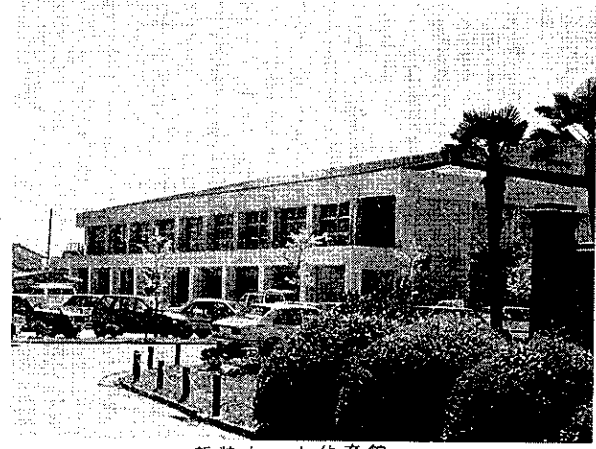
洋面の藤島武二、鹿本太五郎、赤松肇作、林義明とつく伝統は日本の美術史を辿るものである。森谷重夫、駒田浩太郎氏から数多くの若い新人の登龍門として、はれのひのき舞台だった。洋面ばかりではない。この催しは、彫刻、美術工芸、写真、他方面の美術の殿堂となった。浅野松洞、川喜田半泥子以来の書道、美術工芸の伝統も脈々と生きていた。写真部門のような新しい分野でも大正十三年卒の金子安雄先輩をはじめ、ギャラリーを埋めつくした同窓生は数しれず、また書の明治四十五年卒の曾野野矢先輩などは青年をしのぐ作品を発表した。「啄木の歌」がそれである。

明治、大正、昭和の三代にわたる現存の芸術家の作品展は想像もつかない。同時開催の萬 鉄五郎展をしのぐ盛況であった。また、八月二日土社社会福祉会館での津高同窓会は、美術館で同窓生の作品に酔いしれた人々が集まり予定をはるかにオーバーして二百数十名にもなり、関係者をなげかせる

全国を網羅する同窓生

創立一〇周年記念につくられた津高同窓会簿は、コンピュータによる名簿作成会社で印刷製本されたものであり、それ以降も毎年保存管理を依頼している。したがって津高同窓会員の都道府県別分布状況が容易に把握出来るよう頼もしい限りである。(事務局)

北海道	52	長野	39	取根	10
青森	17	富山	19	島根	8
岩手	8	石川	20	山口	25
秋田	9	福井	19	香川	16
宮城	35	静岡	181	徳島	5
山形	7	愛知	1,537	高松	14
福島	11	岐阜	155	愛媛	17
群馬	23	三重	17,329	福岡	64
栃木	31	滋賀	100	大分	10
茨城	83	奈良	374	佐賀	2
千葉	441	和歌山	221	熊本	15
埼玉	287	徳島	55	鹿児島	9
東京	1,724	香川	1,068	宮崎	10
神奈川	880	高松	485	鹿儿岛	11
山梨	11	徳島	52	沖縄	2
新潟	25	高松	53	計	25,564



新装なった体育館

ほとんどの盛況だった。「津高同窓会よ、永遠なれ!」と心から叫ばずにはおれなかった。タイトル「千草光洞(昭和23年生)

テヘランからの便り

外務省イラン大使 野村 豊 (昭和18年卒)

今年の七月、日本では知られぬ法衣をまとい、頭に白いターバンを巻いた外国人の賓客が、天皇陛下や、総理、外務大臣と会談している映像がテレビ、ニュースを賑わしたことを覚えておられる方も多いと思います。

それはイランのラフサンジャニ国会議長、小柄ながら何時も絶やきぬ微笑のなかに精悍な眼をま



イラン特別専用機内でラフサンジャニ国会議長と筆者

しを秘めたイランの(ホメイニ師)の反政府運動により、もろくも倒れてから六年、イスラム革命は八十三歳のホメイニ師(私もこれまで二回、近くで接したことがあるが、大変元氣である。の指導のもと、幾多の問題を抱えながらも次第に安定の度を増してきていていると思われ。

革命後、米国外務省人質事件を契機に、米、カナダ、英国等との外交関係が断絶又は制約されてい

中日の架け橋に

陳川66回 霍 順 田

私は昨年十一月、公用で日本を訪れる機会を得て、別れた二十九年の母校、津中学校(津高専(津高専)を訪問する事が出来まし

た。

十五日の朝から母校を訪れ、当時の先生末葉信弘さん、同級生小林重さん、校長長野野三さん、先生長谷川寛さん、千草嘉夫さん達と親切的懇談を行い、又学校の校舎と当時の寄宿舎を眺めました。

午後リオンビルで歓迎会に出席して、同級生や寮生達、十余人とお会いする事出来まして、親しく昔をたづねました。

お会いした方々で、当時の思い出、一番印象深いのは寮生達との友情です。当時は戦時中で食料が少いので、腹がへつてたままです。

時、寮生達から食(物)を豆腐、焼豆(お餅等)を戴きました。時にまかないさんからお昼食を戴

き、米国の支援のもと安泰といはれたシャイ政権が、イスラム聖職者

革命後、米国外務省人質事件を契機に、米、カナダ、英国等との外交関係が断絶又は制約されてい

るなかで、イランはわが国に対しては同じアジアの国として、ま

たイランの期待する経済、技術力を有する国として、熱いまなざしを注いでいる。ラフサンジャニ

議長は訪日は最初の西遊世界の訪問であった。

日本とイランの関係は、近年急速に深まった。一昨年の春、外務大臣のイラン訪問を契機に、イランからもウエラテ、イラン大使他多くの閣僚、貿易相手国となつて

日本は最大の買入相手国となつた。わが国は総輸入額の七十一

％の石油をイランからの輸入に仰いでいるが、他方輸出の面でも鉄鋼、機械、資本財等の重要輸出

品で、本日に助かりました。今思ひ出すたびに感謝致しております。更に私のクラスの主任一見先生

宿舎の舎監等田先生、末葉先生からいろいろの気を使つて戴きました。今思ひ出すたびに感謝致しております。

四の十二月再び日本を訪問して

海住さん、小林さん、廣田さんと

同窓会事務局の母と、訪問した

處を戴きました。母校は訪問した

とともにも木葉先生や多くの同窓生

達とお会いする事が出来たので、

を、本日に心が嬉しく存じております。この度の訪問を通じて、私達の友情を、一層深める事が出来た。私は今後も中日兩國

人民の友情をますます深めて行く

市場となりつゝある。

イランはサウジに次ぎ中東第一位の石油埋蔵量を有するのみならず、日本の中東からの石油輸入の七

七％が通過するホルムズ海峡を擁し、まさに地政学的に重要な位置を占めている。イ、イ戦争の動向、革命の帰趨がこの中東地域の平和にかゝつてきていて、それは同時に極東に位置するわが国にも大きな影響をあたえかねない。

テヘランの空襲は現在のところ途絶えているが、イラクのカートゥムへの攻撃は連日のように続いている。現在までのところその被害は、一般に報道されているより影響は少く、現在でも二〇〇万パーレル(日産)の生産が続いている。

敵いながらもテヘランの市民生活には活気がある。海抜二〇〇〇―二五〇〇米のこの街はすつつか秋も深まり、天をつくようなブルーの空が広がっている。

昭和十七年に入学し、二十一年(二十二年)に卒業した私達は終戦をはさみ、戦中戦後の波乱に富んだ中学時代でした。三年生で学徒動員にかり出され、三菱四日市工場、同名古屋大工場、津市半田の地下工場と、空襲の度に爆撃で工場を失い、高層階の海軍工廠でやつと終戦を迎えました。落

下する焼夷弾で炎の海と化した夜の四日市の街を、裸足で逃げ回った光景が、今もはつきりと思い出されます。それにしてもクラス全員が、無事であったことが不思議なほどです。終戦とともに学校に戻った私達は、焼け落ちた校舎の残骸を整理し、向かいの新野小學校の仮校舎で授業を始めました。その後一居の職兵隊跡の兵舎に移り、そこで授業を受け、卒業しました。あれから三十八年になります。

海外勤務の機会が多く、今までにインドに三年(家族同伴)、マレーシアに九年近く勤務しました。マレーシアには昭和四十八年から五十二年までと、五十四年から五十九年までの二回にわたり、九年近く勤務しました。農林水産省農産部研究センターの長期在外研究員として、マレーシア最大の作物地帯であるムタカない地域(約十ヘクタール)の水稲、二期栽培技術の改善のための研究を、マレーシア政府と共同で実施しました。特に

二回めの勤務は、同地域の水稲二期作技術体系を確立するために、色々の分野の研究が一緒になつて研究を進めました。その成り行きは日本国内でも注目されていきましたが、幸いにして大きな成果を挙げることができ、マレーシア政府の高い評価と信頼を得ました。このため一昨年の一月、この研究のチームリーダーとしていた私と、副チームリーダーの二人が、マレーシア政府から叙勲の栄に浴しました。十五年前、アメリカ人建築家に贈られて以来、外国人としては二人の栄誉でした。

昨年十月、九年間の在馬研究を終り、筑波に帰りました。今、この研究の成果を、近イナイエリアで開催される国際会議での発表に向け準備されています。士軍間の海外生活を通じ、健康の有難さを痛感しております。学徒動員を除く四年間、片道一時間近い道程を、毎日、松原から津へ通ったこと、縁が峰雪登山、津から伊勢までの夜中津山、津時代の鍛錬が、私の健康への自信、海外での活動の原動力になつていっているに思っています。

私共の周囲には家庭といわゆる産業方面といわずモーターを使った簡化製品がどんどん増えている。熊田方式の省エネモーターの実用化の日が近からんことなうや切である。

方々、物理現象を見る目が養われ、それにしても研究生活とは異なる醍醐味である。誰も知らないことを解き明かし、命を削るようになつて体系化し発表するのである。発表する時は大きな反響を受けることもあるが、良い成果ほど早く専門家の常識にのり上つたものも半年位華となつていようが、早大時代の恩師、堤秀夫先生の「大きな足跡を残せ」という言葉に促つて熊の足跡を日夜努力を続けている今日この頃である。

私共が知っているモーターは、磁石とコイルから出来ている。この常識を破つた、全く新しい方式のモーターが昭和二十四年の熊田明生氏の手によって開発されたのである。

紙相機土俵をたいて振動させると土俵の力が回転する。この振動を回転に変える原理一実際その振動は短秒数万回以上の超音波ではあるが、これをどんどん応用化していった研究である。このたび朝日新聞紙上で二回にわたつてスクープされたこの研究開発は従来の常識的なものとちがって

が戻ってくることを願う気持ち一杯である。

(六〇・一〇・三二)

マレーシアの農業技術に貢献

野崎 倫夫 (昭和22年卒)



サンタン(王様)から勲章を受ける筆者

薄い雪化粧をはじめている。この冬は一番きびしい生活が予想されるが、一日も早く本島の平和

が戻ってくることを願う気持ち一杯である。

(六〇・一〇・三二)

海外勤務の機会が多く、今までにインドに三年(家族同伴)、マレーシアに九年近く勤務しました。マレーシアには昭和四十八年から五十二年までと、五十四年から五十九年までの二回にわたり、九年近く勤務しました。農林水産省農産部研究センターの長期在外研究員として、マレーシア最大の作物地帯であるムタカない地域(約十ヘクタール)の水稲、二期栽培技術の改善のための研究を、マレーシア政府と共同で実施しました。特に

二回めの勤務は、同地域の水稲二期作技術体系を確立するために、色々の分野の研究が一緒になつて研究を進めました。その成り行きは日本国内でも注目されていきましたが、幸いにして大きな成果を挙げることができ、マレーシア政府の高い評価と信頼を得ました。このため一昨年の一月、この研究のチームリーダーとしていた私と、副チームリーダーの二人が、マレーシア政府から叙勲の栄に浴しました。十五年前、アメリカ人建築家に贈られて以来、外国人としては二人の栄誉でした。

昨年十月、九年間の在馬研究を終り、筑波に帰りました。今、この研究の成果を、近イナイエリアで開催される国際会議での発表に向け準備されています。士軍間の海外生活を通じ、健康の有難さを痛感しております。学徒動員を除く四年間、片道一時間近い道程を、毎日、松原から津へ通ったこと、縁が峰雪登山、津から伊勢までの夜中津山、津時代の鍛錬が、私の健康への自信、海外での活動の原動力になつていっているに思っています。

私共の周囲には家庭といわゆる産業方面といわずモーターを使った簡化製品がどんどん増えている。熊田方式の省エネモーターの実用化の日が近からんことなうや切である。

方々、物理現象を見る目が養われ、それにしても研究生活とは異なる醍醐味である。誰も知らないことを解き明かし、命を削るようになつて体系化し発表するのである。発表する時は大きな反響を受けることもあるが、良い成果ほど早く専門家の常識にのり上つたものも半年位華となつていようが、早大時代の恩師、堤秀夫先生の「大きな足跡を残せ」という言葉に促つて熊の足跡を日夜努力を続けている今日この頃である。

画期的な研究 超音波モーターの開発

熊田 明生 (昭和24年卒)



私共が知っているモーターは、磁石とコイルから出来ている。この常識を破つた、全く新しい方式のモーターが昭和二十四年の熊田明生氏の手によって開発されたのである。

紙相機土俵をたいて振動させると土俵の力が回転する。この振動を回転に変える原理一実際その振動は短秒数万回以上の超音波ではあるが、これをどんどん応用化していった研究である。このたび朝日新聞紙上で二回にわたつてスクープされたこの研究開発は従来の常識的なものとちがって

が戻ってくることを願う気持ち一杯である。

(六〇・一〇・三二)

海外勤務の機会が多く、今までにインドに三年(家族同伴)、マレーシアに九年近く勤務しました。マレーシアには昭和四十八年から五十二年までと、五十四年から五十九年までの二回にわたり、九年近く勤務しました。農林水産省農産部研究センターの長期在外研究員として、マレーシア最大の作物地帯であるムタカない地域(約十ヘクタール)の水稲、二期栽培技術の改善のための研究を、マレーシア政府と共同で実施しました。特に

二回めの勤務は、同地域の水稲二期作技術体系を確立するために、色々の分野の研究が一緒になつて研究を進めました。その成り行きは日本国内でも注目されていきましたが、幸いにして大きな成果を挙げることができ、マレーシア政府の高い評価と信頼を得ました。このため一昨年の一月、この研究のチームリーダーとしていた私と、副チームリーダーの二人が、マレーシア政府から叙勲の栄に浴しました。十五年前、アメリカ人建築家に贈られて以来、外国人としては二人の栄誉でした。

昨年十月、九年間の在馬研究を終り、筑波に帰りました。今、この研究の成果を、近イナイエリアで開催される国際会議での発表に向け準備されています。士軍間の海外生活を通じ、健康の有難さを痛感しております。学徒動員を除く四年間、片道一時間近い道程を、毎日、松原から津へ通ったこと、縁が峰雪登山、津から伊勢までの夜中津山、津時代の鍛錬が、私の健康への自信、海外での活動の原動力になつていっているに思っています。

私共の周囲には家庭といわゆる産業方面といわずモーターを使った簡化製品がどんどん増えている。熊田方式の省エネモーターの実用化の日が近からんことなうや切である。

方々、物理現象を見る目が養われ、それにしても研究生活とは異なる醍醐味である。誰も知らないことを解き明かし、命を削るようになつて体系化し発表するのである。発表する時は大きな反響を受けることもあるが、良い成果ほど早く専門家の常識にのり上つたものも半年位華となつていようが、早大時代の恩師、堤秀夫先生の「大きな足跡を残せ」という言葉に促つて熊の足跡を日夜努力を続けている今日この頃である。

平和への思い 美術展によせて

岩井(林)久子 (昭和21年卒)



誰のために 子らのために

くりかえし
くりかえし
伝えていこう
いのちの重さを
平和の尊さを

For whom?
For the children
Again and again
Let us repeat the message:
The sanctity of life
The importance of peace

「第一、同津同窓会美術展」の一盛會、本誌におめでとござい
ました。当初のご計画から開會に
至るまでの、事務局の皆様方の数
数のご尽力に対し、厚く厚くお礼

すくすくつけた医師の門の前で
中から出て来た数人の級友、あ
いまた。「池さん(私)たちは、
よんでいました。桃がたべたい
いつてるけど店はどこあいてい

ない。どうしよう。」
私は、はっとしました。空襲を
免がれた一身田の我が家の小さな
庭の桃の木に実があつたの思い
だしたからです。「池さんに元氣
出すよ」といって、すぐとって
くる。」

を申し上げます。私も大阪で、年
間大小数回的美術展のお世話をし
ておりますので、その一言の程
痛く身に沁みます。加えて私の拙
い作品も並べただきありがた
うございまして。重ねて心よりお
礼を申し上げますと共に、これだ
けはどうしても聞いていただきた
くあつかましくペンをとりました。

どれだけの時間を走つたでしよ
う。桃は二つお下がつていま
した。その桃と、母が風呂敷に包
んでくれたトマト山本駅から津駅
まで今度高田本山駅から津駅
までの線路をひた走り(電車は勿
論不通でした)あの池のほとりま
で来たときです。戸板をかこんだ
一団がこちらへ来ます。お父上、
先生、数人の級友たちの真中に池
山さんがいました。でもその顔に
は白いハンカチがありました。

「池さん、久ちゃんのモモ、モモ
といながら死んでつた」級友た
ちの泣き声が私には遠くに聞こ
えました。

藍綬褒章の
平松さんを訪ねて
伊藤ミヤコ (昭和15年卒)

美術展初日、あの日の教員を各
め十三人の梅組の皆さんが同学
年よりの出品者一人ののめにも集
てくれました。テープカットにも
全員参加、格調高い同窓会を鑑
賞しました。大都市の美術館以上
に立派な美術展の存在と共に
この同窓会美術展を誇り感じ
つ、みんなで帰路にきました。

美術展の門から池へ、そして津
もかわらず背すじもじやんとし
てかしくとしておられます。
褒章は昭和十九年十一月三日付
で多年勤続委員として補正施
設の収容者の普通更生を尽くし、
公に矯正教育に勤めた。まことに公
同の事務に勤勉し労働者である
……という「褒章の記」と共
に飾られておりました。褒章を胸
につけて、顔入りの褒章の記と共
に写真を撮らせていただきました。
平松さんは津高百年誌「あゝ母
校」にも談話や大きな写真が掲載
されていますが、明治四十四年生
百合の組で今年九十一才の高齢に

昨秋、三重の大先輩である平松
みよさん(藍綬褒章)を受賞され
たことを新聞紙上で知り、本年の
三重県支部総会に於いても参会の
皆さんに披露してお祝い申し上げ

たことでした。
この九月、写真家の昭和十一年卒
山路きさんと共に、一身田の旧家
である平松さんのお宅を訪れて、
表彰についてお話を伺いました。
平松さんは津高百年誌「あゝ母
校」にも談話や大きな写真が掲載
されていますが、明治四十四年生
百合の組で今年九十一才の高齢に

去る四月十四日昭和六十年度の
三重県支部総会、一身田高田本山で開
催いたしました。あいにく朝から
うとうとしお天気がしたが例年
幹事一同大奮闘でした。本堂の東
がご出席下さいまして祝辞をい
だきました。感謝の先生は長瀬先生
若林先生はいつも愛らしくお
話された。長瀬先生はいつも愛らしくお

命の重みと平和の重さをくり返し
くり返し伝えながら、大切に守り
育てていかねば、とその思い
をこの後にこめました。
改めて池山さんはじめ、あの戦
争で犠牲になられた多くの方々の
ご冥福をお祈りすると共に、二
人な熱い四月十日の夏を過ごさせ
ていただいた津高同窓会に深い感謝
の思いを捧げ、ペンをおきます
ていました。

61年度 三重桜総会案内

とき 昭和61年4月13日(日)
ところ 津センターパレス(三重会館前)
備考 五階ホール
会費、日程等詳細については後日学年幹事
を通して連絡いたします。

三重桜東京部会報告

天野清子 (昭和3年卒)

爽やかな秋晴れに恵まれた本月
八日、六十年度三重桜東京部会を
梅山荘で開催致しました。
今村先生には「遺跡」をお出し
下さいました。いつに愛するお
健やかなお姿に、教え子達の感激
もひとしおでございます。
山縣有朋公が居を構えられた名
園として名高い梅山荘の場所もよ
し、改装された会場も美しく、更
に二階走が大変美味で、出席の皆
様より好評を博しました。
大正五年卒の大長老の佐野まね
様をはじめ、大正十一年卒の皆様
を頼りにされている方が多いよう
です。
私共は先陣の善行を見習いたい
ものだと思いますが、平松さんのご
健康、ご長寿を祈つてお宅を辞し
ました。

去る四月十四日昭和六十年度の
三重県支部総会、一身田高田本山で開
催いたしました。あいにく朝から
うとうとしお天気がしたが例年
幹事一同大奮闘でした。本堂の東
がご出席下さいまして祝辞をい
だきました。感謝の先生は長瀬先生
若林先生はいつも愛らしくお
話された。長瀬先生はいつも愛らしくお

去る四月十四日昭和六十年度の
三重県支部総会、一身田高田本山で開
催いたしました。あいにく朝から
うとうとしお天気がしたが例年
幹事一同大奮闘でした。本堂の東
がご出席下さいまして祝辞をい
だきました。感謝の先生は長瀬先生
若林先生はいつも愛らしくお
話された。長瀬先生はいつも愛らしくお

三重桜総会報告

今村 房 (大正12年卒)

去る四月十四日昭和六十年度の
三重県支部総会、一身田高田本山で開
催いたしました。あいにく朝から
うとうとしお天気がしたが例年
幹事一同大奮闘でした。本堂の東
がご出席下さいまして祝辞をい
だきました。感謝の先生は長瀬先生
若林先生はいつも愛らしくお
話された。長瀬先生はいつも愛らしくお

去る四月十四日昭和六十年度の
三重県支部総会、一身田高田本山で開
催いたしました。あいにく朝から
うとうとしお天気がしたが例年
幹事一同大奮闘でした。本堂の東
がご出席下さいまして祝辞をい
だきました。感謝の先生は長瀬先生
若林先生はいつも愛らしくお
話された。長瀬先生はいつも愛らしくお

去る四月十四日昭和六十年度の
三重県支部総会、一身田高田本山で開
催いたしました。あいにく朝から
うとうとしお天気がしたが例年
幹事一同大奮闘でした。本堂の東
がご出席下さいまして祝辞をい
だきました。感謝の先生は長瀬先生
若林先生はいつも愛らしくお
話された。長瀬先生はいつも愛らしくお



お知らせ

昭和六十一年度 同窓パーティー

☆昭和六十一年度の同窓パーティーは津センターパレスに決定

とき 昭和61年8月2日(土)
じかん 午後三時より
ところ 津センターパレス(三重会館前)



クラス会

だより

☆昭和十年 津中第五一回 卒業生。6月16日鳥羽サイドホテルで四二名の出席を得て旧交をあたためた。同期、六五名中生者者一〇四名、死一者一名である。

☆昭和四三年津高卒業生。8月15日ホテル・サンルート津において恩師一名称を以て祝賀した。同期、六五名中生者者一〇四名、死一者一名である。

☆昭和六十一年度 津中第六一回(一)短期卒業生。8月18日、米本宏言にて八〇名が集う。米本宏言後藤伴五郎両先生を招き四〇周年記念の同窓会を開催した。

☆昭和六十一年度 津中第六一回(二)短期卒業生。8月18日、米本宏言後藤伴五郎両先生を招き四〇周年記念の同窓会を開催した。

☆昭和六十一年度 津中第六一回(三)短期卒業生。8月18日、米本宏言後藤伴五郎両先生を招き四〇周年記念の同窓会を開催した。

☆昭和六十一年度 津中第六一回(四)短期卒業生。8月18日、米本宏言後藤伴五郎両先生を招き四〇周年記念の同窓会を開催した。

60年同窓パーティー報告

朝井憲生(昭和39年卒)

会場から溢れんばかりの参加者を得て、昭和六〇年度津高同窓パーティーは八月三日(土) 社会福祉会館に於いて開催されました。

本年は昭和二十七年と三十九年卒が指導者でしたが、大先輩である一丁上の方々が寄付から司会までお世話いただき感謝の意を述べた。参加者は、昨年の約二倍に三三八名(陳八八、三重桜六五、津高七一、明治、大正卒業の相互者五、客員八)という盛況ぶ

今年の進路状況

新教育課程によるはじめての大学入試ということで注目を集めた入試でありましたが、本校では国立大、私立大ともに好成績をあげてくれました。

国立大については最難関とされている東大の理国に久しぶりに現役生を輩出しました。また地元の大津大には九六八(現七九浪一七)が合格し、公立大には三三八名合格して国立公立合わせて二七二名となりました。

私立大についても早稲田、慶応、同志社、立命館、関西学院、関西などでもかなりの成果をあげました。これらの大学はいずれも浪入占有率が七〇%以上のところばかりであることを見えますと現浪ともにより健闘したと言えます。

短大については三重短大が今年目を英語科と家政学科の受験科目を英語と国語の二科目に受験した今年に比べて受験生が大幅に増え今年に比べて激戦が予想されます。受験生の数が現役七二万人、浪入一八万人、合計九〇

九〇万人余りが大学、短大を目指す。受入れ側の大学の収容人数も国立大で五六〇〇人の定員増が決定し私立大でも多少の増員が見込まれますがそれでも受験生にとっては今年以上の狭き門になることは確実です。

現三年生にとって大変さびしい来春の情勢が予想されますが、その進路希望をなますと七四・二%が国立大、一八・五%が私立大、六・二%が短大を希望し、昨年以上に国立大に志望が集中しております。残された短期間に更に充実した学習で実力を養成して、一月の共通一次試験、二月の私立大入試、三月の国立大二次試験へと向かってもらいたいものと念願しております。

最後に本校の過去三ヶ年の進学就職状況をあげておきますのでご覧下さい。

Table with 5 columns: 大学合格者数, 国立大, 公立大, 私立大, 短大. Rows for 60年度, 59年度, 58年度.

Table with 15 columns: 大蔵, 法政, 経済, 文芸, 工学, 農工, 農林, 畜産, 看護, 医療, 教育, 学芸, 音楽, 美術, 体育. Rows for 60年度, 59年度, 58年度.

運動クラブの活躍
昭和60年度に於ける本校の運動クラブの原外での成績は次の通り。鳥取国体ソフトF級 森本有紀インターハイ ポート・ナッグルフォア(水野、中森、田中、小林竹尾) シングルスカル(田岡) 東海大会 体操 奥田 隆、陸上丸山充博M10秒? 200M21秒9 太田孝吉 走高跳1M85 井藤勇雄、五種競技30.01点

事務局だより
封筒の表に赤で「お願い、被身会費」と押印されている会報届いた方は未納となつてしまつたのでぜひとも六千円を同封の振り込み用紙を使ってご送金下さい。なおい違ひの場合はお許し下さい。会報三号は会員の住所変更の通知をたくさんいたゞき二面分にもなりました。編集会議でこれを掲載する事が会報の使命という結論となり、寄稿文をかなりカットさせていただきました。深くお詫び申し上げます。

新体育館が落成しましたので同窓会から千草光洞氏(昭和39年卒)の書「津高校歌額入り」を寄贈いたしました。縦一・五M、横六Mの大きなもので、内部設備の一部として壹千円を学校に貸与いたしました。

衛生学院が主たるところでもいづれも志望を叶えてくれます。就職についても希望者は少数でいづれも早い時期に決定して行きます。以上が今年の進路状況の概略であります。次に来年以降の大学入試について申し上げます。

大学入試制度の改革が国大協や郵政省で検討されてきましたが六一年度入試については現行通り、六二年度から共通一次試験の改革と受験機会の複数化が行われることが決定されました。

現三年生が受験する六二年度の全国的情勢はひのえうま年生れが受験した今年に比べて受験生が大幅に増え今年に比べて激戦が予想されます。受験生の数が現役七二万人、浪入一八万人、合計九〇

万人といふかつてない大幅な増加になり、特に現役生が昨年の六二・五万人に対して七二万人と約一万人も増え六二年度入試は現役対浪人の対決とも言われております。したがって現役生同志がひしめき合つて行きます。このように

九〇万人余りが大学、短大を目指す。受入れ側の大学の収容人数も国立大で五六〇〇人の定員増が決定し私立大でも多少の増員が見込まれますがそれでも受験生にとっては今年以上の狭き門になることは確実です。

Large vertical list of names and numbers, likely a directory or membership list for the alumni association.

謹しんでご冥福をお祈りいたします。
(Reported by 田中 恒)